

# 住友化学 i-農力だより

第24号 12月10日

発行 住友化学・住化武田農薬

お客様相談室 0570-058-669

発行責任者 古津 昇

i-農力サイト <http://www.i-nouryoku.com/index.html>

## 目次

農家さん訪問記	p.1
住化アグログループ紹介 (株)日本エコアグロ	p.5
新農薬紹介「ヨシキタ剤」	p.7
今月の相談内容から	p.8
農薬あれこれ?なぜなに?コーナー	p.9
今月のお奨め農薬	p.10
病害虫発生情報	p.11
農薬登録情報	P.13
最近の「お・・美味しい!」	p.15
コラム・そば談義	p.16
編集後記	p.16



「コガラ(シジュウカラ科)とサザンカ(ツバキ科)」技術顧問 富樫作

## 農家さん訪問記

### 淡路の人のために役に立つものを発明したい!

今回の農家さん訪問は淡路島です。兵庫県南あわじ市のたまねぎ農家である土井清溢(どいせいいつ)さん(73歳)に、農業への思いについて語っていただきました。

兵庫県南あわじ市 土井 清溢さん(73歳)

#### たまねぎは甘くてみずみずしいのが特長!

訪問当日は、神戸市より、高速バスで明石海峡大橋を渡って淡路島に入りました。

天候にも恵まれ、瀬戸内海や淡路の山々の景色を車窓から楽しみました。島の北部では、山の斜面がそのまま海に至る場所が多く、傾斜地に作られた数多くの棚田が印象的でした。

淡路島の名産にはいろいろありますが、農産物ではたまねぎが有名です。最初に栽培されたのは明治時代ですが、大正時代に田中萬米(まんべい)の指導で本格的な栽培が始まりました。淡路島のたまねぎは甘味が強くおいしいと評判で、特に春に収穫される早生のたまねぎは、水に晒さずに生で食べると絶品とのこと。



## 長年の勘と経験から何を栽培するか二人で決める！

今回訪問した土井さんは、淡路島で長年にわたってたまねぎを栽培しているベテランです。

もっとも、最初の仕事は農業ではなく、会社に勤めていました。そこを辞めて、農業をしていた父親の後を継いだそうです。

土井さんが耕作している土地の面積は、約 2.6 ヘクタールです。作物別では、たまねぎが約 1.4 ヘクタール、はくさいが約 60 アール、レタスが約 40 アール、キャベツが約 20 アールです。葉菜については収穫後の連作を予定しており、現在、約 50 アール分の苗を作っています。野菜全部で年間に 11,000 ケースも出荷します。

一方、夏場は水稲のみで、現在は 4 割の減反となっているため、約 1.4 ヘクタールを栽培しています。普通は稲が主役で、野菜は裏作ですが、ここでは野菜が表で、稲が裏作です。

淡路島では、個々の農家が高い収益を得られそうな作物を予想して、作付けする作物の種類や割合を変更します。土井さんの所も例外ではありません。何をどれだけ作るかについては、奥さんと相談しながら、長年の勘と経験を頼りに決めていきます。

昔のたまねぎの品種（淡路 1 号、2 号）は個性が強く、煮炊きすると今のものよりも美味しかったのですが、今はフライなどに向けた F1 系統に変わったとのこと。また、淡路島ではかつて乳牛の飼育が盛んで、農家はそのたい肥を使って野菜を作っていたのですが、島であるため水の確保が難しいことや、土地の値段が上がったことなどから、乳製品関連の工場が撤退し、酪農は下火になっていったそうです。



たまねぎの苗床（定植時に葉をカッターで切る）



たまねぎの葉カッター機

## 高齢化農家を支えるのは高性能農機具か？！

土井さんは 2.6 ヘクタールの規模を、驚いたことに、奥さんと二人だけで栽培しています。収穫時など、特に忙しい時だけはシルバー人材センターから手伝いに来てもらいますが、他に人は雇っていません。このような多忙な中でも、土井さんは、奥さんを大切にしています。「女の人は男とは体の作りが違うし、家庭の用事もあるのだから、女の人の作業は男の 7 割くらいになるよう気を配っている」そうです。

息子さんがいますが、神戸で会社勤めをしており、今のところ農業を継ぐ予定はないとのこと。また、週末でも息子さんに手伝ってもらうことはありません。土井さんは、会社勤めの人に農作業をさせるのは好きではありません。以前、会社で部下を持っていた経験か

ら、週末に農作業をして、月曜日に疲れた顔で入社するのは、本人にも会社にとっても良くないと考えています。



遠くに明石大橋を望む



淡路北部の棚田

さて、土井さんがここまで経営規模を大きくしたのは最近のことです。淡路島では、農家の高齢化と後継ぎの問題が深刻で、離農する人も多く、そうした人の土地を借りて耕作地を広げました。市の農業委員会が農地の貸し借りを斡旋しており、土井さんもそのシステムを利用しました。

淡路島では、農業の機械化が進んでいます。かつては比較的豊かな収入があったため、高価な農業機械も導入してきた農家が多く、そのおかげで現在でも高齢の人達の多くが農業を続けられています。一方で、数千万円単位の導入費用は、経営規模を大きくしないと回収できなくなるという状況も生み出しました。土井さんが規模を拡大した背景には、このような事情もあります。

## 就寝前に反省して明日の予定を考えるのが日課！

野菜は10アール30万円の売上が出ないと赤字になります。良いときでも50万円、普通で30万くらいで、今年は残念ながら赤字の見通しです。

目標は売上で1,000万円で、これだけあれば経費を引いて数百万円くらい残ります。出荷はほとんど農協経由です。作物の価格が安い時に補填される「安定資金」が、農協出荷を前提としているため、そのようになっていったそうです。

土井さんは、いつもよく考えて工夫することが大事という考えを持っています。現在も就寝前に、その日の反省をし、明日の作業の予定について考えることを欠かしません。旅行をしても、その土地の農家さんの工夫に目が行き、いろいろと参考にしているそうです。

特筆すべきは、ご自身の発明品で特許を取得したことです。会社をやめた後、淡路島の人に役立つものを作りたいとあれこれ考え、キャベツやレタスなどの野菜を定植する際に使用する装置を考案して特許を取得しました。

野菜の苗を移植する際の間隔は、種類によって異なります。当時は糸を張り、移植箇所印をつけていましたが、作業が面倒でした。考案した装置(写真参照)では、車輪部分を転がすだけで等間隔で印を付けることができます。間隔は、輪の中央からの分岐の数を3つにするか4つにするかを決め、次いで輪の直径を変えることで簡単に調節できます。この装



マルチ目印装置

置は淡路島では広く普及し、役立ったと思います。今後、年金代わりにもう一つ発明して特許を取りたいと考えているそうです。

## メーカーは栽培から販売まで総合的サポートを！

野菜づくりでは、様々な産地からの競争相手の作物が数多く並ぶ中で、主婦が手にとってくれるような作物をお店に提供することが重要です。

そのためにメーカーに望むことは、その地域にあったきめ細かなサービスです。土壌分析と、その土地に向けた肥料の提供から始まって、栽培に必要な農薬や資材の提供、より良いものを作るための工夫やアドバイス、出来た作物をより良い状態で売り場まで送り届ける技術など、初めから終わりまで一貫したサポートが欲しいとのことでした。

最後に、これからの夢についてお訊きしたところ、特に難しいことは考えていないが、奥さんと二人で、少しでも長く元気で仕事を続けたいとのことでした。

「そろそろ引退したら」という人もありますが、元気なうちはやめるつもりはありません。仕事をやめると老化が早くなる気がします。死んだ後で、「この人は上手に百姓じよったな」と、若い人から認めてもらうのが望みです。50代によく仕事をしていてもみんな忘れられてしまいますが、死ぬ間際まで仕事をしていたらみんながよく覚えてくれると思います。最後まで負けん気は忘れず、125歳までは生きるのが目標です。

## たまねぎの定植時期にも暖冬化は影響！

インタビュー後、たまねぎの定植作業の様子を見せて頂きました。(写真参照)

この機械は、移植する苗が無くなると自動的に止まる機能を備えた優れモノです。なお、以前の植付け時期はもっと早かったのですが、最近暖冬の影響で、12月にずれこんでいるそうです。

今回のインタビューでは、70歳を過ぎても、様々な機械を駆使しながら、奥様とたった二人で広い畑を守っておられる元気な姿と、人を思いやる優しい人柄が印象に残りました。(南)



定植機を楽々扱う土井さん

\*なお、今回の土井さんのインタビューに際して、広本肥料(株)様には大変お世話になりました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

[目次へ戻る](#)

## 住化アグログループ紹介 (株) 日本エコアグロ

## 土壌診断と土づくり

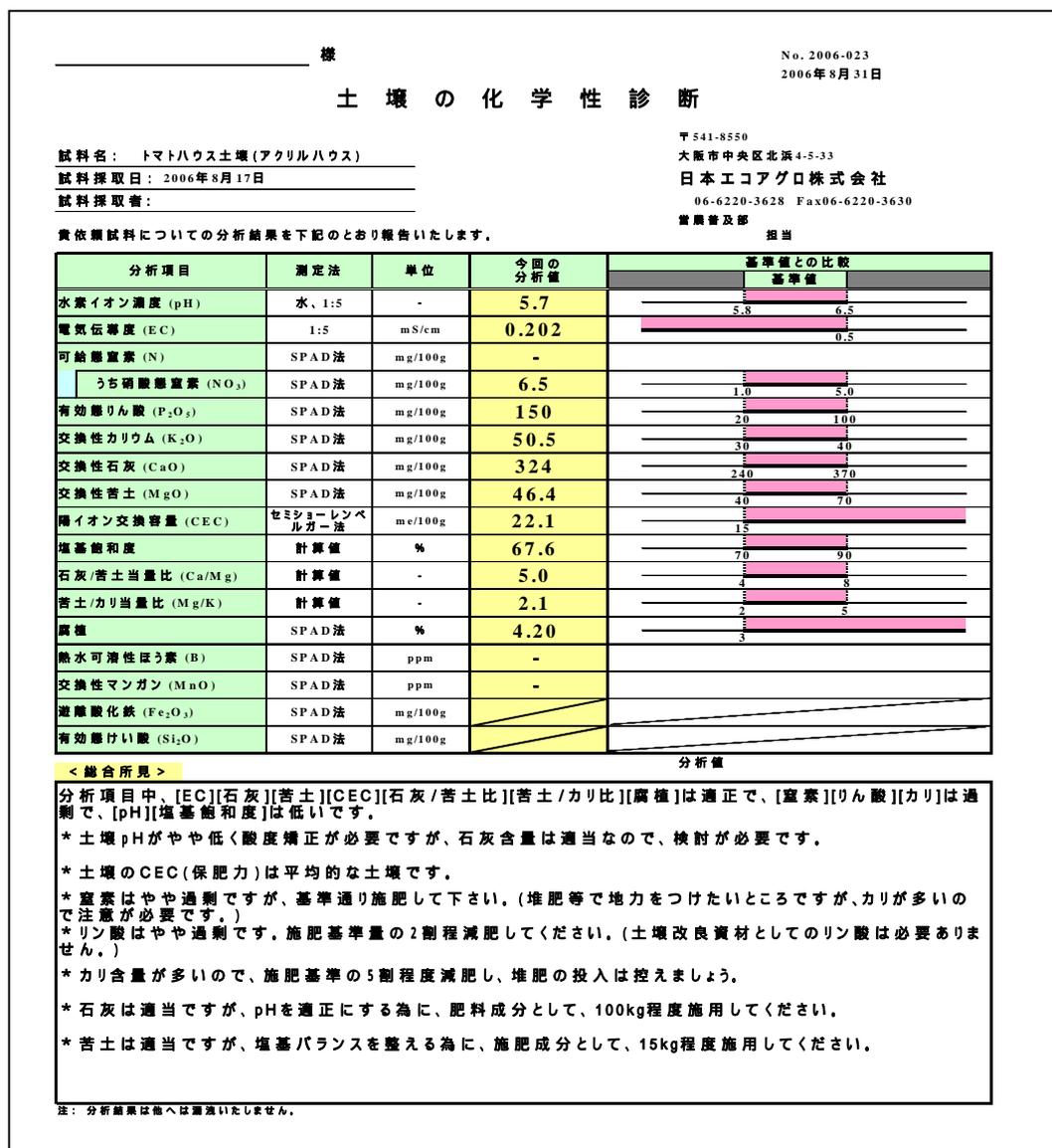
本誌第3号でご紹介しましたように、弊社は「農業におけるトータルソリューションの提供」の一翼を担うべく事業活動に取り組んでおります。

即ち、作物栽培の土台となる「土作り」と「施肥設計」、栽培環境に対応してIPMを軸とした「病害虫管理」、そして収穫までの「栽培全体管理」に関するプログラムや様々な技術情報提供、資材販売等を行っております。さらに、上記取組みを通じてお客様の農産物の商品企画を提案したり、新たな販売先の開拓にも貢献できるよう努力してまいります。

このような多面的な当社の活動の中で、栽培のスタートとなる「土作り」と「施肥設計」について、以下に具体例の一部をご紹介します。

## 1、土壌診断：作付け前に土壌の化学性を診断

- ・ 可給態窒素の測定……… 土壌の肥沃度
- ・ 多量要素・微量元素(ミネラル類)の測定……… 適切・過不足の把握



## 2、施肥設計：各種診断をもとに、栽培目的(特別栽培等)に適応した施肥設計の提案

様

## 【土づくりのための土壌改良資材の施用例】 (10a当り)

kg / 10a

種類	資材名	施用量	石灰(成分)	リン酸(成分)	苦土(成分)	カリ(成分)
石灰資材	エッグエース	200	104			
苦土資材	天然硫酸苦土	60			14.4	
カリ資材	(不要)	0				
リン酸資材	(不要)	0				
計		260	104	0	14.4	0

「エッグエース」は穏やかに効く石灰資材の為、石灰分を長期間供給できます。また、長期間安定したpHを維持することができます。

「天然硫酸苦土」は天然鉱物ですので、結晶構造が硬く、ゆっくり長く効果的に苦土分・イオン分を補給します。また、苦土は相乗効果により、リン酸分の吸収を補助します。

(注意)施肥例は一般的な資材の場合です。使用する資材の成分に応じて施肥量を決定して下さい。

## 【施肥設計例】(10a当り)

kg / 10a

## トマトでの施肥設計例

種類	資材名	施用量	N	P	K	備考
元肥	真緑ベレット623	150	9.0	3.0	4.5	有機100%肥料
元肥	NEAミネラル	80				ケイ酸質鉱物
元肥	マイグリーン	150				微生物発酵肥料
追肥	NEA液肥2号	—	—	—	—	無機液肥(10 5 7) 月1~2回施用
追肥	東日ライム(冬季)	—	—	—	—	無機液肥(7 0 3) 月1~2回施用
計			9.0	3.0	4.5	

\*元肥は有機質を主体とした設計を行っている為、「真緑ベレット623」を入れています。また、土壌分析の結果、リン酸分・カリ分が高かった為、リン酸・加里の施用量を減らした設計にしています。

\*強健な作物育成と微量要素補給の為に、「NEAミネラル」を設計に入れています。

\*土壌微生物相を維持・改善して、作物の生育を旺盛にさせたり、健康な作物体を育てる為に、「マイグリーン」を設計に入れています。

\*追肥には、バランスのとれた液肥である「NEA液肥2号」を中心とした設計をしています。冬季には樹勢回復、成り疲れ防止、尻腐れ防止対策として、微量要素入り硝酸石灰液肥である「東日ライム」を入れて下さい。尚、追肥は品種にも寄りますが、頂果房の果実肥大以降、草勢に応じて施用して下さい。使用方法は「NEA液肥2号」或いは「東日ライム」は月1~2回を目安として、1回の施用量は窒素量で1~2kg/10a程度を施用することをお奨めします。

\*上記の施肥設計は、一般的なトマトの施肥量に当社の資材を用いて設計した例です。各地域で、施肥量が異なりますので、従来の施用量を考慮して、上手く施肥を献立しながら、良質なトマト栽培に努めて下さい。

(注意)施肥例は一般的な資材の場合です。使用する資材の成分に応じて施肥量を決定して下さい。

今後も、定期的に土壌診断を実施し、地力向上に努めましょう。

科学的な土壌診断、適切な施肥設計を実施することで、

適正な施肥量により肥料コストの低減が図れ、農産物の品質向上に役立つ。

有機物の有効活用による土作りとそれによる減化学肥料が可能となる。

地下水汚染などの環境負荷が軽減される。

などの、より良い栽培環境づくりが期待されます。

尚、各種診断および施肥設計に関する詳細につきましては、弊社までお問合せください。

日本エコアグロ株式会社 TEL: 06-6220-3628 FAX: 06-6220-3630

[目次へ戻る](#)

## 新農薬紹介

# ヨシキタ 1 キロ粒剤・フロアブル

今月は新規水稲用一発処理除草剤ヨシキタ 1 キロ粒剤・フロアブル（平成 1 8 年 1 1 月 1 日登録認可）をご紹介します。

本剤は、イネ科以外の一年生雑草や多年生雑草に高い除草効果を示すイマズスルフロン、S U 抵抗性のホタルイやコナギに高い除草効果を示すプロモブチド、ノビエなどに高い除草効果を示すペントキサゾンの 3 成分をバランス良く配合した初期一発処理除草剤です。

本剤の主な特長は以下の 3 点です。

1. **強力です！**：ホタルイ、コナギ、アゼナ等の S U 抵抗性雑草をはじめ広範囲の雑草に高い除草効果を示します。

2. **省力です！**：省力散布技術「田植同時散布」にも最適！田植同時散布装置を取り付けて田植と除草剤散布が一度に終了できます。もちろん移植直後～ノビエ 1.5 葉期までの使用も可能です。

3. **余裕です！**：ノビエや S U 抵抗性雑草に 4 0 ～ 5 0 日程度の長い残効を示します。

なお、ヨシキタ剤を田植え同時散布で上手にお使いいただくために以下の点にご注意下さい。

田植同時散布を行う場合には、ひたひた水状態で散布を行い、散布後速やかに湛水深 3 ～ 5 c m まで入水し、水口を止めてください。

その後 3 ～ 4 日間はそのまま湛水状態を保ち、薬剤散布後 7 日間は落水、かけ流しはしないで下さい。

以上ご紹介させていただきました。

農家の皆様から待ちに待った除草剤が「よーし来た（ヨシキタ）」と言っていただけの製品です。優れた特長を有する水稲用除草剤ヨシキタ 1 キロ粒剤・フロアブルをどうぞよろしくお願いたします。（泉）



こまきちゃんて田植同時散布



GS1 で田植同時処理風景

[目次へ戻る](#)

## 今月の相談内容から

## コナジラミ・アブラムシにベストガード粒剤

## 質 問

毎年アブラムシ類の防除に追われています。効果的で、省力的な防除を紹介して下さい。

## 回 答

トマト・なす・キュウリの生育期に発生する厄介な害虫は、コナジラミ類・アブラムシ類などです。

これらの防除には畑全面の薬剤処理が必要で、大変な作業になります。もっと早めに苗の段階での防除で長い持続効果が期待できると、より省力的で経済的です。一般的に行われている定植時の植穴処理土壌混和では十分な効果が期待できますが、定植時の作業がより煩雑になります。

そこで、「ベストガード粒剤」について、育苗期の苗の株元処理が適用拡大されましたので、ご紹介します。

対象は、育苗中のトマト・ミニトマト・きゅうりのアブラムシ類及びコナジラミ類と、なす（なすは既登録）・メロン・ピーマンのアブラムシ類で、苗1株当り1gを株元に処理するだけで、これらの害虫の発生を長期間抑制します。また、レタスの重要害虫であるナモグリバエには、新たに1株当り0.5gの適用拡大となり、薬量は0.5g～1gに拡大になりました。

更に、は種時の育苗培土混和处理として、トマト・ミニトマトのアブラムシ類・コナジラミ類、なすのアブラムシ類、レタスのナモグリバエに加えて、ねぎのナモグリバエが登録になりました。その使用方法は、「培土1リットル当りに5gを混和し、は種」というものです。

その他には、トマト・ミニトマトのアブラムシ類・コナジラミ類と、なすのアブラムシ類に対し、苗の鉢上げ時に使用する育苗培土混和法があります。モザイク病を媒介するアブラムシ類やトマト黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミを早めに防除して、健全な苗の生産が出来ます。

但し、これらの処理（培土混和・育苗期苗処理及び定植時処理）はいずれか1回です。散布には別途の回数があります。

「ベストガード剤」は、最近全国に拡大しているタバココナジラミのバイオタイプQにも卓効を示しますので、是非ご使用ください。（富樫）



[目次へ戻る](#)



農薬のラベルは化学名みたいなものが書かれていてわかりづらい~?!

### ご質問

農薬をちょくちょく使っています。先日商品のラベルを見ていて、気になったのですが、パッと見ると化学品の名前みたいなものがたくさん目につきますね。例えば「スミチオン乳剤」ですが、MEP乳剤という文字が書かれていますが、「MEP」って何でしょうか？また、インターネットなどで調べると「フェニトロチオン」という名前も出てきます。人に聞くとそれは「原体だよ」と教えてくれましたが、「原体」って何でしょうか？

ちょっとごっちゃになっています。(そもそも化学名が出てくるだけで、ちょっと難しそうだなと思ってしまうので(ごめんなさい)・・・)

### お答え

農薬は、薬効を発揮する有効成分と、その有効成分を安定的に保存し、作物に撒いた時にその薬効を最大限に発揮できるように状態にするために、界面活性剤や水、鉱物質の粉などを混ぜて商品としています。

有効成分を通常「原体」と呼び、この性質によりどのような虫・菌・草に効くかが決まります。農薬にはこの有効成分を基に化学名、一般名、商品名等が付けられています。

化学名というのは、スミチオン乳剤の場合〔0,0-ジメチル・・・〕というように、専門家が見ればどのような構造式をした物質かがわかる名前ですが、化学に詳しくない人にはチンプンカンプンなものです。そこで、権威のある専門学会で承認された名称が、簡潔な一般名として使用されます。スミチオンの場合はフェニトロチオンという名前がここで言う一般名にあたりますが、登録を取得した昭和36年当時は、BHC、DDTなど一般名にアルファベットの略称が付けられていましたので、スミチオンもMEPという呼称で登録され、そのまま現在も使用されています。

商品名は販売のための名前です。メーカーが製剤ごとに付けます(例えばスミチオン乳剤、スミチオン水和剤、スミチオン粉剤など)。また、販売会社ごとにそれぞれの屋号を付けて住化スミチオン乳剤、武田スミチオン乳剤というような形で区別されているのが大半ですが、中には有効成分が同じでも商品名が違うこともあります(例えば、有効成分DDVPの場合、DDVP乳剤、デス、ホスピット乳剤、ラピックなど)。

(佐伯、稲葉)



[目次へ戻る](#)

## 今月のお奨め農薬

# たまねぎの除草剤「クレマート乳剤・U粒剤」

たまねぎの秋まき栽培で、上手な除草体系をご紹介します。

たまねぎには春まき栽培(北海道：約13,000ヘクタール)と秋まき栽培(北海道除く：約14,000ヘクタール)があります。

秋まき栽培は9月には種して、11月に定植します。冬季は生育が緩慢で、2~3月の気温の上昇とともに地上部や根の生育が急激に旺盛になり、5~6月に葉が倒伏して収穫を迎えます。

雑草も秋から冬に発生したものが気温の上昇とともに急激に繁茂して、たまねぎの生育に影響を与えます。従って、雑草対策は定植後の土壌処理剤と、1~3月の茎葉処理剤の体系除草になります。

希釈して散布する土壌処理剤としては、クレマート乳剤(200~400mL/10a)を全面土壌散布します。但し、春季処理は薬害(葉の捻転)があるので適しません。同じ成分の剤で、畦にそのまま散布できるクレマートU粒剤(4~6kg/10a)もあります。いずれの剤も多



年生・キク科雑草及びツユクサには効果が劣りますので、これらの優先する圃場では耕種的防除と組み合わせてご使用ください。また、土壌処理剤でトレファノサイド乳剤(200~300mL/10a)も販売しています。

上手な使い方として、除草剤を散布した圃場は処理層を壊さないよう注意してください。その後に発生した雑草は、茎葉処理剤で防除します。発生したイネ科雑草には、セレクト乳剤(イネ科雑草3~5葉期、50~75mL/10a)を雑草の茎葉部に散布します。スズメノカタビラの場合は枯れるまで日数がかかります。また、広葉雑草にはバサグラン液剤(60~120mL/10a)があります。たまねぎの生葉4葉期までに、広葉雑草の3~4葉期に散布します。

大きくなった雑草には、ハービー液剤(300~500mL/10a)があります。たまねぎの定植前または、定植後の畦間雑草に茎葉散布します。ただし、本剤はたまねぎに散布液がかかると薬害が出ますので注意が必要です。

最後に、たまねぎ栽培では、病害のべと病と雑草対策が最重要事項です。(富樫)

[目次へ戻る](#)

## 病害虫発生情報

11月～12月初旬に各県から出された病害虫注意報・特殊報から、主要なものをお知らせします。

### 野菜類

いちご ハダニ類

注意報：愛知・大分県

早期発見・早期防除を心がけてください。寄生葉は圃場外へ持ち出し処分してください。薬剤は下葉かきを行ってから、ダニが生息する葉裏にかかるように散布してください。粘着くん液剤、オサダン水和剤・フロアブルなどが使用できます。



きゅうり キュウリホモプシス根腐病

特殊報：山形県

これまで、埼玉・福島・神奈川・岩手・宮城で発生が報告されています。

土壌伝染する病害で、罹病植物の根部残渣とともに土壌中に残存し伝染源となります。

太陽熱消毒、蒸気消毒等の熱消毒が有効です。薬剤防除では、クロールピクリン剤による土壌消毒が有効です。



きゅうりホモプシス根腐病

トマト トマトすすかび病

特殊報：広島・鳥取県

病徴は葉かび病に似ており肉眼での判別は不可能ですが、顕微鏡下では容易に判別がつかます。過湿にならないように注意してください。また、被害植物の残渣上で生存して次の伝染源となりますので、被害葉などは圃場外へ持ち出してください。

すいか えそ斑点病

特殊報：長崎県

*Melon necrotic spot virus* のスイカ系統による病害で、鳥取・高知県で確認されており、長崎が3県目の発生です。登録薬剤はありません。

ピーマン ピーマンモザイク病

特殊報：大分県

病原のウイルスと同系統は高知・茨城・岩手県、北海道で確認されています。

虫媒伝染はしませんが、種子・土壌・接触・汁液伝染をします。

はさみをハウスごとに替え、洗浄、消毒したものを使用するなど、二次感染防止に努めてください。



ピーマン モザイク病

## みょうが クリバネアザミウマ

特殊報：埼玉県

クリバネアザミウマは、ピーマン・シシトウ、クワイ、ナス、ポトスなどでの被害報告があります。アグロスリン水和剤は、みょうがのアザミウマ類で登録があります。



クリバネアザミウマ雌成虫 1.5mm

## 果樹

なし キクイムシ類

特殊報：愛知県

サクセスキクイムシ、サクキクイムシがなしの果実に食入しているのが確認されました。キクイムシ類は通常幹や主枝に食入しますので、この防除を徹底してください。

## その他

ゆり イチゴセンチュウ

特殊報：埼玉県

生育途中に下位葉から黄化・枯死し、上中位葉では葉のねじれる奇形が発生します。登録薬剤はありませんので、被害株を抜き取り、残渣とともに屋外に持ち出して処分してください。

トルコギキョウ トルコギキョウえそ斑紋病

特殊報：山形県

インパチェンスえそ斑紋ウイルス (INSV) により起こる病害です。このウイルスはアザミウマ類(主としてミカンキロアザミウマ)によって伝播されます。

アディオフロアブルがトルコギキョウのヒラズハナアザミウマで登録があります。



組織の中のイチゴセンチュウ

ベゴニア ベゴニアえそ斑紋病

特殊報：三重県

インパチェンスえそ斑紋ウイルス (INSV) により起こる病害です。葉に輪紋、斑紋などを伴う、えそ症状(褐変枯死)を発生する他、退緑斑点などのモザイク症状を引き起こします。伝播の原因となるアザミウマ類の防除を徹底してください。

[目次へ戻る](#)

**農薬登録情報**

11月15日、11月29日 の適用拡大内容です。

**適用拡大**

薬剤名	変更点	作物	病虫害名	使用量	内容	
ダントツ 水溶剤	害虫追加	稲	イネドロオイムシ	1000倍/25L/10a	パンクル等での少量散布	
		稲(箱育苗)	ツマグロヨコバイ フタオビコヤガ	200倍 500mL/箱	育苗箱の上から均一に散布する。	
		だいず	マメシンクイガ	2000倍	散布	
			フタスジヒメハムシ	2000～4000倍		
		ピーマン	コナジラミ類	2000～4000倍	散布	
		キャベツ	アオムシ	2000倍	散布	
		りんご	リンゴワタムシ	2000～4000倍	散布	
		かんきつ	ミカンバエ	2000倍	散布	
	うめ	ケムシ類	2000倍	散布		
	作物追加	かんきつ(苗木)	ミカンハモグリガ	20倍 10～100mL/樹	春芽夏芽又は秋芽の発生前3回以樹幹散布	
		ゆり カーネーション	アブラムシ類	2000～4000倍 100～300L/10a	発生初期4回以内散布	
	ダントツ 粒剤	作物追加	カーネーション	アブラムシ類	1g/株	生育期株元散布
		害虫追加	キャベツ	ネキリムシ類	0.5g/株	育苗期後半株元処理
				アブラムシ類		旧：モアアブラムシ
使用方法追加		キャベツ	アブラムシ類・ハイマダラノメイガ	0.25g/株	は種時 覆土後セル成型育苗トレイの上から散布	
			アブラムシ類	1g/株	定植時 植穴処理土壌混和	
			コナガ アオムシ	2g/株		
		メロン なす ピーマン	アブラムシ類	1g/株	育苗期後半株元処理	
		トマト ミニトマト	アブラムシ類	1g/株	鉢上時株元処理	
きゅうり		コナジラミ類	1g/株	育苗期後半植穴処理土壌混和		

薬剤名	変更点	作物	病害虫名	使用量	内容
ベストガード水溶剤	作物追加	せり/水田	アブラムシ類	2000倍 100～300L/10a	7日前 3回以内

薬剤名	変更点	作物	変更内容
サルバトーレME液剤	作物削除	茶	茶の登録を削除
マテリーナ水和剤	使用時期 使用回数 の変更	はくさい	使用時期を「収穫7日 14日前まで」に変更 ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数を 「5回 3回以内」に変更
パダンオリゼメート粒剤 パダンバッサオリゼメート粒剤	使用時期 の変更	稲	出穂3～4週間前まで 収穫前30日前まで
ジベラ錠	使用時期 の変更	不知火	90日前 7日前
		りんどう (セル苗)	定植直前 定植1～5週間後
	総使用回数 の変更	いちご	2回以内 1株当たり10回以内
	使用方法 追加	うど (春うど)	ジベラリソ50～100ppm根株浸漬(瞬間浸漬)追加

(稲葉・佐伯)

[目次へ戻る](#)

# 最近の「お・・美味しい!」

弊社相談室紅一点!の佐伯がお送りします  
最近の「お・・美味しい!」  
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で、  
毎月「これぞ!」というものを紹介します。  
どうぞお楽しみに♪♪



## 「おいもさんは、万能選手でした」

先々月に募集しました「ご飯のおかずに合うさつまいも料理」。いくつかご教授いただきましたので、ここでご紹介したいと思います。

まずは、鹿児島県からM・Fさん(女性)より教えていただいた「さつまいもと鶏肉のみぞれあえ」!

醤油や片栗粉で下味をつけた鶏肉とおいもさんを素揚げして、酢+砂糖+醤油と大根おろしを混ぜたソースと和えて出来上がりのこのお料理。

さつまいもの甘味と、大根おろしの辛味って相性はどうなのかな?とと思っていましたが、最初に大根の辛さが来て、あとからさつまいもの、ホクホクした甘さが来てなかなかの美味。

「なーんだ。とっても相性良いんじゃないの~!」と思いました。さつまいものおかず料理のポイントは「持ち味の甘さをうまく利用する」。これですね。甘辛味の料理だったらさつまいもを甘味に替えてもいいかもしれません。



甘・辛・酢・・いろいろな味の共演です



さつまいものスイーツ

ちなみにもう1品。箸休めの献立ということで別途教えていただいた「リンゴとさつまいもの煮物」。こちらは両者を砂糖で甘く煮るお料理なのですが、シナモンを振ったら、なんだかアイスクリームが欲しくなって結局添えてしまいました。ということで、こちらは箸休めではなく完全に、デザートになってしまいました。この最強タッグは期待を裏切りませんでした。文句なく美味しい!!

それにしても「さつまいも」って料理にもデザートにもOKだし、本当は万能選手かも・・・  
これからもっと活用せねば・・・!

(みなさま!このたびは、ご協力ありがとうございました。)(佐伯)

[目次へ戻る](#)

### コラム・そば談義

最近、蕎麦屋さん以外の飲食店でも「手打そば」を添えるところが多くなったように思う。

理由は、お客さんの心理として、食事と一緒にそばも食べてみたいとか、酒を飲んだ最後に少し何か食べたいとか思うのだろう。そんな時、ラーメンなどではなく胃に凭れないでスーッと入る「手打そば（もりそば）」ならいいという感覚であろうか。

そんな店の一つに、郡山駅前にある割烹店「わび筋」がある。美味しい料理とお酒も十分堪能した後で、打ちたて茹でたてのそばが出てくる。店主曰く、「そばの打ち方は自己流なので」としきりに謙遜されていたが、季節柄もあるが新そばと出汁がよくマッチして本当に美味しかった。

店主の云われるように、そばの打ち方は確かに蕎麦屋と少々異なるのだが、カウンターを挟んだ向こう側にある狭い調理台で、そばを器用に打つ姿に感心した。特に、麺を延ばして切るまでの手順は、要領がよくテキパキとして流石にプロの料理人と思う。私のような素人は、眼や耳学問が邪魔になり、これはこうしなくてはダメだという固定観念に捕われるが、全く違ったやり方を見ると、アッこんなやり方があったのかと眼からウロコではないが感心してしまう。この「わび筋」も、「手打そば」を10年程前から添えるようになって、ご婦人方を中心にランチタイムは待ち時間が出るほど繁盛だそうだ。

さて、我が相談室もお客様が何を欲しているのかを掴み、最後に「手打そば」ではないが、何かもう一つ満足して頂けるような一言を添えることが出来ればと思う。また、固定観念に捕われなくて、臨機応変にお客様に対応出来るよう柔軟な心を持ち続けたいと思うのだが・・・。

(古津)

### 編集後記

【お知らせ】本誌の題字を今月号より「住友化学 i 農力だより」に変更いたしました。

弊社製品営業部はこれまで、住友化学・住化武田農薬という二つの会社名で営業販売していましたが、今月より住友化学の会社名で営業販売していくことになりました。

そこで、この機に本誌題字も「住友化学 i 農力だより」に変更しました。また、「ホームページの i 農力」についても広く世間に認知して頂く目的も兼ねました。

さて、月日が経つのは早いもので、今月号(24号)で初刊から2年が経ちました。これも、ひとえに暖かく見守って頂いた読者の皆様方のお陰と感謝しています。また、来年からも新たな気持ちで紙面づくりに我がグループ全員で取り組んで参りたいと思います。そして、今後も本誌に対して叱咤激励頂きますよう宜しくお願い申し上げます。

予告・・・昨年同様年明けには、産地の果物を抽選でお送りしたいと思います。詳しくは、新年号にてご案内申し上げます。



[目次へ戻る](#)